患者向医薬品ガイド
2022年３月更新

フルコナゾール静注50mg「NP」
フルコナゾール静注100mg「NP」
フルコナゾール静注200mg「NP」

【この薬は？】

販売名	フルコナゾール静注50mg「NP」 FLUCONAZOLE INTRAVENOUS	フルコナゾール静注100mg「NP」 FLUCONAZOLE INTRAVENOUS	フルコナゾール静注200mg「NP」 FLUCONAZOLE INTRAVENOUS
一般名	フルコナゾール Fluconazole		
含有量 （１容器中）	50mg	100mg	200mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、深在性真菌症治療剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、感染症の原因となる真菌（カビの一種）の細胞膜成分の合成を妨げることにより、真菌の増殖を抑えます。
・次の病気の人に、医療機関において使用されます。
○カンジダ属及びクリプトコッカス属による下記感染症
真菌血症、呼吸器真菌症、消化管真菌症、尿路真菌症、真菌髄膜炎
○造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

・次の薬剤を使用中の人：トリアゾラム（ハルシオンなど）、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン（クリアミン配合錠）、ジヒドロエルゴタミン、キニジン（キニジン硫酸塩）、ピモジド（オーラップ）、アスナプレビル（スンベプラ）、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル（ジメンシー配合錠）、アゼルニジピン（カルブロック）、オルメサルタン　メドキソミル・アゼルニジピン（レザルタス配合錠）、ロミタピド（ジャクスタピッド）、ブロナンセリン（ロナセン）、ルラシドン（ラツーダ）

・過去にフルコナゾール静注「NP」に含まれる成分に対し過敏症のあった人

・妊婦または妊娠している可能性がある人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・過去に薬物に対し過敏症のあった人

・心臓に障害のある人または電解質異常のある人

・腎臓に障害のある人

・肝臓に障害のある人

・授乳中の人

〇腎臓に障害のある人は、この薬を使用する前に、クレアチニン・クリアランスの検査が行われます。

〇この薬を使い始める前に、ワルファリンを使用している人は、そのことを医師に伝えてください。

〇過去にアレルギーや過敏症などがある人は、そのことを医師に伝えてください。

〇この薬には併用してはいけない薬[トリアゾラム（ハルシオンなど）、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン（クリアミン配合錠）、ジヒドロエルゴタミン、キニジン（キニジン硫酸塩）、ピモジド（オーラップ）、アスナプレビル（スンベプラ）、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル（ジメンシー配合錠）、アゼルニジピン（カルブロック）、オルメサルタン　メドキソミル・アゼルニジピン（レザルタス配合錠）、ロミタピド（ジャクスタピッド）、ブロナンセリン（ロナセン）、ルラシドン（ラツーダ）]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状や体重などにあわせて医師が決め、医療機関において注射されます。

〔成人の場合〕
通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

カンジダ症	一回量	50～100mg
	使用回数	１日１回、静脈から点滴されます。
	最大量	400mg まで増量されることがあります。
クリプトコッカス症	一回量	50～200mg
	使用回数	１日１回、静脈から点滴されます。
	最大量	400mg まで増量されることがあります。
造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	一回量	400mg
	使用回数	１日１回、静脈から点滴されます。

〔小児の場合〕
通常、小児の使用量および回数は、次のとおりです。

カンジダ症	一回量	体重１kg あたり３mg
	使用回数	１日１回、静脈から点滴されます。
	最大量	１日体重１kg あたり 12mg まで増量されることがあります。
クリプトコッカス症	一回量	体重１kg あたり３～６mg
	使用回数	１日１回、静脈から点滴されます。
	最大量	１日体重１kg あたり 12mg まで増量されることがあります。
造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	一回量	体重１kg あたり 12mg
	使用回数	１日１回、静脈から点滴されます。

・ただし、１日量は 400mg までです。

〔新生児の場合〕
通常、新生児の使用量および回数は、次のとおりです。

カンジダ症	一回量	体重１kg あたり３mg
	使用回数	生後 14 日までの新生児では、72 時間ごと
		生後 15 日以降の新生児では、48 時間ごと
	最大量	１日体重１kg あたり 12mg まで増量されることがあります。
クリプトコッカス症	一回量	体重１kg あたり３～６mg
	使用回数	生後 14 日までの新生児では、72 時間ごと
		生後 15 日以降の新生児では、48 時間ごと
	最大量	１日体重１kg あたり 12mg まで増量されることがあります。
造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	一回量	体重１kg あたり 12mg
	使用回数	生後 14 日までの新生児では、72 時間ごと
		生後 15 日以降の新生児では、48 時間ごと

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・ワルファリンと併用する場合は、出血のしやすさを確認するため、血液検査の回数が増やされることがあります。
・この薬を使用する際には、定期的に血液検査、腎機能検査、肝機能検査、血中電解質検査、心電図検査等が行われます。
・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンスジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンスジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
血液障害 けつえきしょうがい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
肝障害 かんしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
意識障害 いしきしょうがい	意識の低下、意識の消失
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える

重大な副作用	主な自覚症状
高カリウム血症 こうカリウムけっしょう	体のしびれ、体に力が入らない、吐き気、嘔吐（おうと）、下痢、お腹が張る
心室頻拍 しんしつひんぱく	めまい、動悸、胸の不快感、気を失う
QT 延長(心電図上の異常) キューティーえんちょう(しんでんずじょうのいじょう)	めまい、動悸、気を失う
不整脈 ふせいみゃく	めまい、動悸、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
偽膜性大腸炎 ぎまくせいだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、寒気、出血が止まりにくい、むくみ、疲れやすい、力が入らない、顔や手足の筋肉がぴくつく、体のしびれ、体に力が入らない
頭部	めまい、意識の消失、頭が重い、意識の低下、一時的にボーっとする、気を失う、頭痛
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	目の充血やただれ
口や喉	喉のかゆみ、唇や口内のただれ、喉の痛み、歯ぐきの出血、吐き気、嘔吐、咳
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、胸の不快感
腹部	食欲不振、お腹が張る、腹痛
手・足	手足が冷たくなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、脈が遅くなる、脈がとぶ
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、あおあざができる
便	下痢、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る
尿	尿量が減る

【この薬の形は？】

販売名	フルコナゾール静注 50mg「NP」	フルコナゾール静注 100mg「NP」	フルコナゾール静注 200mg「NP」
容器の形状	プラスチックバッグ 	プラスチックバッグ 	プラスチックバッグ
性状	無色澄明の水性注射液		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	フルコナゾール静注 50mg「NP」	フルコナゾール静注 100mg「NP」	フルコナゾール静注 200mg「NP」
有効成分	フルコナゾール		
添加物	等張化剤、pH 調整剤		

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ニプロ株式会社（https://www.nipro.co.jp/）
医薬品情報室
電話：0120-226-898
受付時間：９時～17 時 15 分
（土、日、祝日、その他弊社休業日を除く）